

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670500376		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム久世 1F		
所在地	京都府京都市南区久世上久世34-2		
自己評価作成日	平成24年12月27日	評価結果市町村受理日	平成25年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;ligvosyoCd=2670500376-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;ligvosyoCd=2670500376-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年2月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が、日々楽しく過ごしていただけるように、支援していく。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との関わりを大切にしており、食材等地域の店舗から購入し、祭りや運動会、菊花展等地域の行事に参加し交流を図っています。向かいの保育園で行われる体操に参加させてもらったり、5歳児を対象に認知症サポート講座を行い幼児期から認知症理解の素地を作ると共に交流の輪を広げています。事業所だよりを地域に回覧してもらったり、コンビニに置かせてもらうなど地域の方の事業所への理解に繋げると共に、踊りやハーモニカ演奏、音楽療法など多くの地域ボランティアの来訪もあります。職員間のチームワークは良好で利用者、職員の申し送りノートを活用し連携を図りながら一人ひとりの要望に応じた支援に努めています。食事は旬の食材を使用し、利用者の出来ることに携わってもらい準備や片づけを共に行い食事を楽しみなものとしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に事業所理念の唱和を行っている。又、「日々楽しく」をGHの目標にして利用者様の要望を主体にレクリエーションをしたり、ボランティアさんの参加もとりにしている。	法人理念を基に職員間で話し合い「日々楽しく支えあい共にいきる」という事業所理念を作成し玄関に掲示しています。職員は毎朝理念を唱和し日々の生活の中で利用者の得意な事を引き出し楽しみを持ちながら暮らすことが出来るよう理念に沿った支援に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材や花は地元の店舗を利用している。向かいに移転してきた保育園へは毎週体操時間に参加している。行事には園児がGHにきて歌、踊りを披露してくれている。GHからは利用者が作ったはりえをお礼に送った。交流が進んでいる。	自治会に加入し事業所のオーナーや運営推進会議等で地域の情報を収集し、祭りや菊花展等の行事に参加しています。向かいの保育園児の体操に参加したり小学校の運動会を見に行くなど子供たちとの交流を図っています。多くのボランティアの来訪や近隣の方から野菜が届くこともあります。事業所の広報誌を回覧板で廻してもらったり近くのコンビニに置かせてもらうなど、事業所を地域に知ってもらうために取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には民生委員さん、オーナーさん新たに保育園の園長さんも参加されている。地域の人々に対しては久世だよりを3カ月に1回発行しコンビニに置いたり地域の回覧板に載せてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度実施し、議事録を配布している。	会議は地域包括支援センター職員、利用者、家族、オーナー、保育園職員の参加を得て2カ月毎に開催し、状況報告や事故報告、意見交換をしています。ノロウイルス流行時に手洗いやうがい等の予防を徹底するアドバイスをもらい、職員と話し合い今迄の取り組みに重ねて感染症の予防に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括から参加してもらっている。南区介護保険サービス連絡協議会に参加し、南区認知症相談窓口を設置した。	市の窓口には法人の担当者が outgoing 情報交換をしています。事業所は運営推進会議の議事録や広報紙を直接届け協力関係が築けるよう努めています。南区介護保険サービス連絡会に出席し、情報をもらったり、意見交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを参考に全職員が意識し取り組んでいる。	法人主催の研修に参加し、会議の中で伝達研修を行い全職員の理解に繋がっています。玄関は施錠せず利用者の安全を守るためにセンサーを設置しています。定期的に振りかえりセンサーに頼らないケアを心がけ、利用者が出掛けたい時は一緒に出かけ閉塞感のないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを参考に全職員が意識し取り組んでいる。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は多くは持てていないので、今後知識を深めていきたい。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	規定、重要事項説明書等、書面も使いながら、説明している。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のコミュニケーションを大切にしている。その際に意見をお聞きし、運営に反映させている。玄関に投書箱を設置している。	面会時や電話、アンケート等で家族からの意見や要望を聞いています。居室の清掃等についての意見を受け職員間で検討すると共に清掃や換気に配慮し、利用者が快適に暮らせるように改善に向けて取り組んでいます。アンケートの結果は全家族に報告しています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員、管理者、事業所所長、統括による定期的な面接を行い、意見を聞いている。フロア毎のミーティングも適時行っている。	ミーティングやカンファレンス、個別面談で職員の意見や提案を聞いたり、管理者やリーダーが職員に声をかけて意見を言い易い雰囲気や心掛けており、職員は日々の業務の中でも活発に意見や提案を行っています。日々のケアや行事についての提案もあり、出された意見は職員間で話し合い改善や実施に向けて取り組み、サービスの向上に反映させています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	力量評価で個々の状況を把握し向上を目的にアドバイスをしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量把握のうえ、本部研修、各種研修に参加できるよう調整している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府GH協議会、南区協議会への参加や、組織内で他事業所との研修、イベントを通じて情報の交流をしている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員、管理者、計画作成者が入居前の面接を行う。施設見学をしてもらう。センター方式を利用している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員、管理者、計画作成者が入居前の面接を行う。施設見学をしてもらう。センター方式に記入してもらう。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家人、職員が連携をとり、サービスを 見極める。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることをしてもらい、生活を手助けして あげる関係から、より絆を深めていく。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、行事参加により、良好な関係を基 に、本人を支えている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の話を傾聴し、生活への活力につなげ る。自由に面会にきていただき関係を保っ てもらっている。	友人が来られた時は居室でお茶を出したり 声かけをして次回の面会に繋げるようにして います。錦市場の近くに住んでいた利用者 の希望で市場まで出かけるなど要望に応じ て支援をしたり、実家を見に行きたいなど利 用者の思いを家族に伝え、一緒に出かけら れるよう家族とも協力をしながら関係が継続 出来るよう支援しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	常に利用者様同士のかかわりには目をむ けている。助けあえる関係への手助けや、 トラブルへの配慮を心がけている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により転居された入居者様のお見舞いに行く。又他施設へ移られた時には面会に行く。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。本人や家人の意見、希望を大事にしている。	契約時に利用者や家族の意向、暮らし方の希望を聴き、職員間で共有し把握に努めています。日々の会話の中から知り得た情報は介護日誌や申し送りノートに記入して、カンファレンスで話し合い、本人本位に検討しています。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。家族とのコミュニケーションから把握できるよう努めている。本人を理解し寄り添えるように努力している。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個人ノートで日々の変化について報告している。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとにカンファレンスを行いケアプランの作成をする。	追記されたアセスメントや家族、利用者の意向に沿って介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い6ヶ月毎に定期的な見直しを行っています。状況に応じて随時見直しをしています。見直しの際には全職員参加のカンファレンスを行い必要に応じて家族の意見や医師、看護師の意見を反映させています。全職員が介護計画を把握し易いようにファイリングの工夫をしています。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細はケース記録に、また個人的な連絡は個人別連絡ノートに記入し情報を共有する。 又、不定期ではあるが職員のミーティングをやって認識を統一させチームケアに活かすようにしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練、非難訓練を行っている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望で入居前の主治医へ受診されている方は1名、洛和会の医療施設を利用されている方は8名。	入居時に今迄のかかりつけ医の希望を聞き、協力医へ変更された方もあります。受診は基本的に家族が行い、場合によっては職員が同行することもあります。2週間毎に協力医の往診があり、週1回の訪問看護で利用者の健康管理が行われています。看護師とは24時間連絡可能で看護師を通じて病院に連絡をとっています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護をうけている。常に状態の報告、相談をしている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と事業所の相談員が連絡を取り合っている。職員も情報を共有している。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家人、の意向を尊重し、希望にそえるようとりくんでいる。	入居時に看取り指針を基に利用者、家族に説明し意向の確認を行っています。状態が変化した場合は医師や家族も交えて話し合うようにしていますが、病院や他施設に転居されることもあります。事業所としては医療行為を必要とせず、家族の希望や協力があれば看取りの支援も行っていく方向にあり、研修を受けて職員のスキルアップに繋げています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修を定期的に行っている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導による避難訓練、事業所独自の避難訓練をしている。	年2回消防署立会いの下、昼間・夜間想定で通報、初期消火、避難誘導の訓練を行い運営推進会議で報告をしています。また、運営推進会議と合わせて訓練を行い、会議のメンバーの参加を得ています。事業所独自では2カ月毎に防火設備やコンセントの埃などの点検や環境整備等も含めて訓練を行っています。	

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に気をつけている。	法人主催の接遇研修を全職員が受講し理解を深めています。また管理者は折に触れて話をしよう心がけ、日頃の対応を振り返る機会としています。言葉遣いには常に注意を払い丁寧な声かけや場合によっては耳元で小声で話をするような配慮もしています。不適切な言動が見られた場合は職員同士で注意をし合ったり管理者が注意をすることもあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いが出せるよう、気をつけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を優先している。どんな時に嬉しいのか、不安なのか理解してあげる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ビューティーヘルパーを利用している。本人の希望により、地域の美容院も利用する。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な人には、調理を手伝ってもらう。 1人1人の方に少しでも参加してもらえるように工夫している。	食材を見て献立を決め、準備から味見、片づけまで利用者の出来ることに携わってもらい、同じものを一緒に摂り、会話を楽しみながら和やかな雰囲気になるように努めています。レクリエーションを兼ねて外食をしたり、要望に応じて個別に食事外出をすることもあります。時には弁当など出前を取る楽しみもあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の摂取量を把握し、チェック表を参考に体調管理に取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。義歯は週2回ポリドントにつけている。週1回歯科衛生士によるケア、三ヶ月に1回医師のチェックをうける。			

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導も他の人にきずかれぬよう誘導している。	排泄記録表により個々に合わせて声かけや誘導を行いトイレでの排泄が出来るように支援しています。適切な対応をすることにより紙パンツから布パンツとパッドに移行し皮膚の状態が良くなる方もあり、改善に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれのリズムを把握して、食事内容や、ナースや医師の指示で、薬でのコントロールもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせて入浴してもらっている。拒否のある場合は、状況にあわせて声かけをしていく。	入浴準備は毎日午後からしており、週に2～3回を目途に入ってもらっています。状況に応じて夜間入浴も行っています。湯は毎回入れ替え清潔に心がけており、季節の柚子湯等で楽しみながら入ってもらうこともあります。入浴拒否の方は声のかけ方やタイミングを見はからって誘導しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望にあわせた安眠を優先し環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルで全職員が、内容、時間を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみ、役割を理解し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、散歩、外気浴等、希望に添えるよう支援していく。年間行事に希望を取り入れ、家人の参加も声かけしている。	近隣への散歩や買い物、ドライブ等希望に沿って支援をしています。時にはガレージのベンチで外気浴をしたり、誕生日には一人ひとりの希望を聞き行きたい処や食事に出かけています。利用者に希望を聞きながら年間計画を立てると共に家族にも声をかけ一緒に出かけることもあります。季節を感じる花見や紅葉、祇園祭、初詣等季節毎の外出支援も行っています。	



己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、家族の了解のもと、事業所が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をかいて出したり、家人に電話をしてもらい安心してもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者様の手作り作品、行事の写真、花等でくつろげる空間を作っている。	玄関やリビングには雛人形や利用者と共に作った作品を飾り、季節感に配慮しています。温度や湿度、換気にも気を配り、一休み出来るように椅子を置いたり、テレビの前にはソファを置くなど利用者が快適に寛ぎながら過ごせるよう配慮しています。キッチン是对面式になっておりキッチンの前のテーブルで職員と共に食事の準備を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の会話がはずむように空間作り、ソファの位置を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの使いなれた家具や衣類等、好みに合わせて自由にしてもらっている。	居室は洋室と和室の両方があり、ベッドや布団は利用者の好みによって選ぶことが出来ます。利用者は位牌を持参されたり、家具やテレビ、ドレッサーなど使い慣れた品々を置き、家族と共に安全面に考慮しながら配置しています。壁には写真やカレンダー、時計等を掛けその人らしい居室作りが成されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をかける。座席には各々の座布団をおき、居場所を認識してもらう。得意なことを生活に生かしてもらえるよう心がけている。		